

1. 総論

- (1) ネットワークレイヤーにおける従来の競争評価の在り方については、近年のワイヤレスブロードバンドの進展を踏まえた全体的な見直しが必要ではないか。
- (2) 近年、情報通信分野のビジネスモデルでネットワークレイヤーと上位・下位レイヤーとの関係が深まっている中、上位・下位レイヤーの動向も分析することが必要ではないか(特に、移動体通信領域)。

2. 各論1 (ネットワークレイヤー)

(1) 市場画定の在り方

① 移動体通信領域

- ・ 従来、携帯電話・PHSについては、音声サービスとデータ通信サービスを一体として分析していたが、ワイヤレスブロードバンド化の進展を踏まえ、別々に分析すべきではないか。
- ・ また、ワイヤレスブロードバンドの市場分析するに当たっては、固定通信領域(ブロードバンドサービス)との関連についても考慮すべきではないか。
- ・ Wi-Fiルーターや公衆無線LANについても、データの入手可能性を踏まえ、分析対象とするか検討する必要があるのではないか。

② 固定通信領域

- ・ 光ファイバ(FTTH)については、サービス競争面(主に契約数ベース)のみならず、設備競争面(各事業者が所有する回線数ベース)も併せて分析すべきではないか。

(2) 評価・分析の手法

- ・ 事業者の市場支配力を分析するに当たっては、その指標として、これまでの契約数のみならず、売上高等についても見ることはできないか。

3. 各論 2 (上位・下位レイヤー)

(1) 上位・下位レイヤーの動向把握

- ・ 上位・下位レイヤーの各サービスを各々市場として画定して分析することは困難ではないか(海外事業者の存在など)。
- ・ 上位・下位レイヤーの各サービスを各々市場として捉えるのではなく、ネットワークレイヤーの競争評価に当たり、上位・下位レイヤーの動向を考慮するというではないか。
- ・ サービス揺籃期における上位・下位レイヤーの動向把握においては、データ入手が困難な場合もあるため、産業政策的視点から定性的に分析することも一案。
- ・ クラウドサービスなどの新たなサービスが登場しており、プラットフォームレイヤーの位置付けについて検討する必要があるのではないか。
- ・ 利用者が無料で利用できる検索エンジンなどのサービスについては、当該サービスに関連する広告連動や研究開発の動向に着目した分析ができないか。
- ・ 上位・下位レイヤーにおける新たなサービスの発展を阻害しないよう配慮が必要。

(2) その他

- ・ 上位・下位レイヤーの動向把握とともに、ネットワークの中立性(ネットワークのコスト負担)についても検討する必要があるのではないか。